

平成 29 年 10 月 31 日

科学カフェ京都の思い出

特定非営利活動法人 科学カフェ京都 理事 下浦 一宏

1 はじめに

NPO というのは給料がもらえる訳ではないから、活動に参加するには何等かの目的が必要となる。それが各人微妙に異なっている点が NPO 運営の難しさであり、また面白さでもあると思う。私は 90 年代に電力会社で高速光通信の研究をしていた。それでブロードバンド社会の到来は予見していたし、マスメディアに乗らないような専門的映像がネットを通じて配信される事も予測できた。私の参加目的はそれを実証する事であった。

90 年代の光通信技術の進展は革命的であり研究現場に居合わせた事は幸運であった。面白い逸話もいろいろあるが、いずれ長谷川晃先生にご講演頂ければと思う。長谷川先生とは学生時代（阪大レーザー核融合研究センター）からの縁であり、光通信、科学カフェとご縁を頂いた事はありがたい事であった。最近では電子書籍をシリーズ化されているが、常に新しい事にチャレンジする姿勢は見習うべきものである。

2 立ち上げの頃の思い出

2004 年 8 月に京大前の進々堂で打ち合わせをした時が伊藤榮彦先生との初対面であったと記憶する。先生は海外の理科教材などを見せながらサイエンスカフェの構想について話された。当初 5 年程度継続すれば良いですねと話しておられたが、活動は既に 14 年目に突入している。

私は故武野正三先生からお誘いをうけて科学カフェ京都の立ち上げから参加した。伊藤先生と武野先生は京大物理の同期と伺った。武野先生との出会いも長谷川先生の主宰する「光ソリトン通信研究会」であった。私は 2003 年 12 月に関電を早期退職したが、再就職のあてもなく時間があつた私に声をかけて下さったのだと思う。2005 年の国際物理年を控え、アインシュタインの論文など調べておられた事を思い出す。武野先生は 2006 年 5 月に亡くなられた。

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/110258/1/KJ00004706600.pdf>

2005年9月10日、旧春日小学校でおこなった「NPO法人科学カフェ京都」の設立総会は、このNPOの設立趣旨に関係するので書いておきたい。（以下引用）

<http://d.hatena.ne.jp/kagakucafe/20130506/1367804856>

中坊公平氏が亡くなったとのニュースが流れている。中坊氏は剛腕弁護士として弱者救済のために様々な功績をあげ、日弁連会長にまで登りつめたが、晩年は整理回収機構から詐欺容疑や懲戒処分を受け、失意のうちに引退を余儀なくされた、と一般には理解されている。

私が中坊氏に出会ったのは、2005年9月10日、旧春日小学校でおこなった「NPO法人科学カフェ京都」の設立総会での事である。（中坊氏の弁護士登録抹消請求と退会届は05年11月に受理されている。当時、春日小学校には、総合地球環境学研究所が入っていた。）

それまで任意団体として活動してきたものを、NPO法人にする事が決定された。中坊氏はNPOの活動資金として多額の寄付をされた上で、理事にも加わられたが、体調を崩して実際の活動にはほとんど参加されなかった。中坊氏が加わったのは、科学カフェの創立者である伊藤榮彦先生の小学校の同級であった関係と聞いている。

中坊氏は我々理事に対し、ご自身の裁判での経験を1時間程話された。内容は著書にある通りであるが、中坊氏の裁判は、森永ヒ素ミルクにしても、千日前ビル火災にしても、いわば御用学者との闘いであったので、科学者、技術者に自らの良心に基づいて証言する事を求められたのだと思う。

中坊氏は「私は日本の科学技術者に不信感を持っている」、と言われた。裁判では科学技術者の証言が決め手となるケースが多い。「救うも科学者、殺すも科学者」という事になる。決して、科学の楽しさを伝えようとか、理科離れ防止といったレベルの話ではなかった。福島原発事故の時には、その主旨を心がけたつもりである。私は偶々、中坊氏の訾訾に接する機会を得たので、一人の偉大な人物の記録として証言させて頂いた。ご冥福をお祈りいたします。（引用終わり）

3 京都府知事賞の思い出

個人的に特に思い出するのは、2007年11月2日、京都新聞文化ホールで開かれた京

都府の地域力再生「京のチカラ・明日のチカラ」コンクールにおいて、当NPOから提出した「在宅研究者派遣事業+京都科学TV」が見事、「府知事賞」を獲得した事である。

<https://ameblo.jp/kagaku/entry-10058181466.html>

当時私は、芦田譲先生（京大名誉教授、第31回講演）の立ち上げた、環境・エネルギー・農林業ネットワーク（EEFA）というNPOでアルバイトをしていて、同コンクールへの応募を命ぜられた。それで、資料を1つ作るのも2つ作るのも同じだろうと思い、科学カフェの分も作成した所、こちらが府知事賞となってしまったものである。

在宅研究者（大学や企業の退職研究者）の活用をテーマとしており、京都府下の小中学校への講師派遣を実施した。坂東先生と周山中学を訪問した時は、帰路ネズミ捕りにつかまってしまい、経済的にきつかった事もあり、反則金を払って頂いた事を思い出す。坂東先生は別途、「知的人材ネットワークあいんしゅたいん」というNPOを立ち上げ、ポストドク問題などに取り組んでおられる。

<https://ameblo.jp/kagaku/entry-10215088397.html>

<http://jein.jp/>

4 科学カフェの今後

インターネットの普及に伴い、ネット環境があればできる仕事も増えてきている。一部の研究活動もそれに含まれるだろう。最近は企業も副業を認めるようになって来ている。私の現在の目標は「副業研究者の実証」であり、経済シミュレーション等の研究と、仕事を両立させる事である。またNPOとしても、これら「副業研究者」を支援するような活動をすすめたいと思っている。2002年3月に大阪から京都に越してきて、そのまま京都に骨を埋めるつもりであったが、その後紆余曲折があり、滋賀を経由して、現在は奈良に住んでいる。NPOの存在は、京都との接点であり、有難い事だと思っている。

参考文献

[1] 下浦一宏「関西の人材育成」（2010.9.11）

<https://docs.google.com/document/edit?id=1xQSIloqqiA15UBvGohtR6vQKHFF73w01LiIYiO6LWqA&hl=en>